NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

Vascular Street

特集

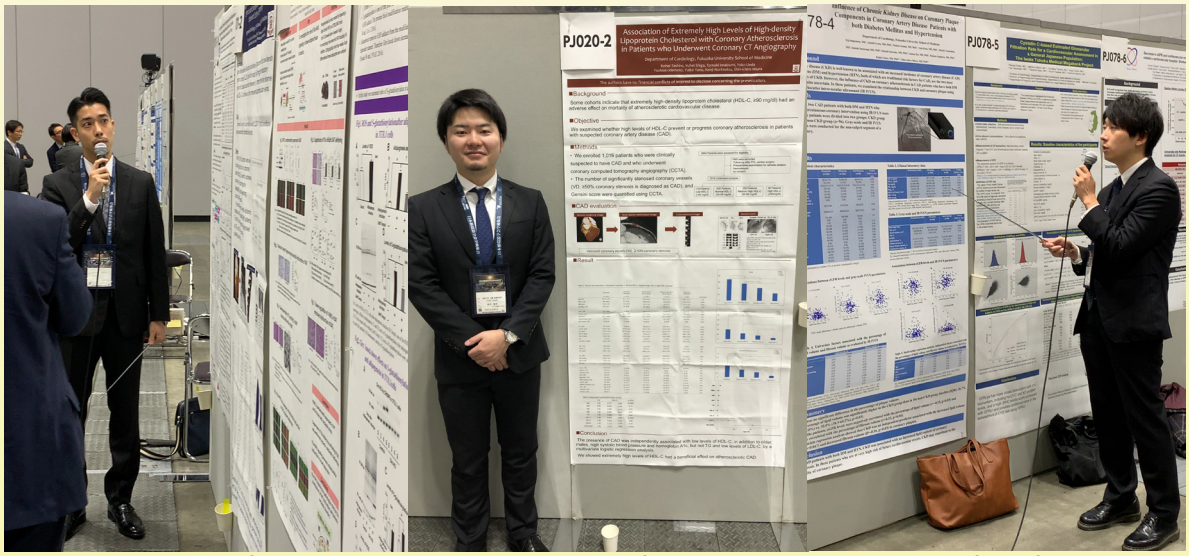
第 83 回日本循環器学会学術集会を終えて

2019 年 3 月 29 日 -31 日（横浜）

第 83 回日本循環器学会学術集会が 2019 年 3 月 29 日（金）～ 31 日（日）、テーマ「循環器病学 Renaissance - 未来医療への処方箋」（横浜）として、東京大学大学院循環器内科学教授で日本循環器学会代表理事の小室一成会長の下、開催されました。最新の検査・治療に関する多くの演題が発表されていましたが、福岡大学医学部心臓・血管内科学からも 23 の演題を報告しました。そのいくつかの発表をここではご紹介します。

福岡大学医学部心臓・血管内科学　教授　三浦 伸一郎

演題発表された大学院生の先生方



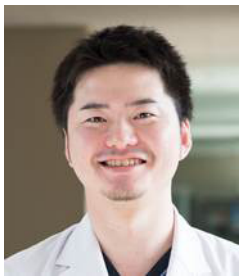
川平先生　田代先生　重本先生

「Angiotensin Receptor Neprilysin Inhibitor Attenuates Abdominal Aortic Aneurysm in Angiotensin II Infused Mice」

田代浩平、桑野孝志、末松保憲、北島研、三浦伸一郎

「Association of Extremely High Levels of High-density Lipoprotein with Coronary Atherosclerosis in Patients who Underwent Coronary CT Angiography」

田代浩平、志賀悠平、井手元良彰、今泉朝樹、上田容子、矢野祐依子、則松賢次、三浦伸一郎



田代先生

私は、2演題を発表させていただきました。前者は、新規心不全治療薬である ARNI(Angiotensin Receptor Neprilysin Inhibitor)が Angiotensin Ⅱ誘発性大動脈瘤モデルマウスの大動脈瘤発生の抑制を報告したものです。ARB 等の既存薬よりも強力に大動脈瘤発生を抑制しており、将来、ヒトにおいても同様の薬効性が認められれば、外科手術が適応とならない大動脈瘤患者の予後改善に寄与できるのではないかと考えております。詳細なメカニズムは、まだ不明であるため今後さらに研究を進めていく予定です。後者は、HDL-C の超高値と冠動脈疾患の関連性を当院の冠動脈 CT 検査実施症例を基にしたデータベースを用いて解析を実施したものです。従来、超高 HDL-C 値

NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

は、冠動脈疾患のリスクファクターとなり得る可能性がいくつかのコホート研究で示唆されていましたが、当院のデータでは、HDL-C が高ければ高いほど冠動脈疾患のリスクを低減していることが示されました。今後は、プラーク性状や血清アポ蛋白などの測定を行いメカニズム解明に努めたいと考えております。

「服薬アドヒアランスに影響を及ぼす外来患者の意識調査並びに阻害要因の検索」

大津友紀、末松保憲、甲斐麻美子、神村英利、三浦伸一郎

大津先生

外来患者300名を対象に実施した服薬アドヒアランス関連のアンケート解析結果及び影響している因子についての発表を行いました。主観的評価にはなりますが、当科外来患者の飲み忘れは31.7%に、自己減量・中断は5.3%に見られ、年齢(若年)や高血圧症(非合併)などが服薬アドヒアランスに有意に関連している因子であることが示されました。患者意識を含めた解析結果から、飲み忘れに関しては、仕事の忙しさや投与目的の不理解、習慣づいていないことでのうっかり忘れが要因であることが示唆されました。服薬アドヒアランスに影響及ぼす因子は多岐にわたるため、その向上へのアプローチは単純ではありませんが、薬が飲めないのか・薬を飲まないのかを区別し、問題への解決を本人と共に考えると共に、多職種で協働し取り組んでいくことが必要であると改めて感じた研究及び発表となりました。

Observational Study

Medicine®

OPEN

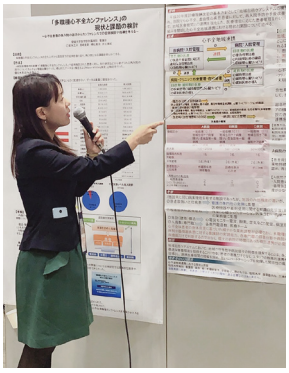
Assessment of inter-rater agreement between physicians and their patients regarding medication adherence in a clinical questionnaire study

Yuki Otsu[a,b], Mamiko Kai[a], Yasunori Suematsu[c], Fumiaki Kiyomi[d], Keijiro Saku[c], Hidetoshi Kamimura[a,b], Shin-ichiro Miura[c,*]

大津先生の発表は、Medicine に掲載予定です。

「心不全地域連携における現状と課題」

頼永桂、木場紗智子、志賀悠平、藤見幹太、有村忠聴、坂本摩耶、合谷裕子、三浦伸一郎、橋口ちづる

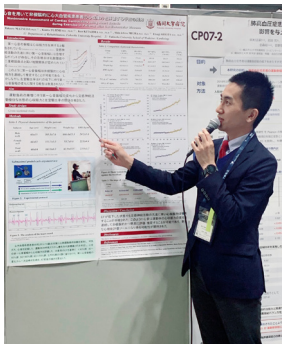


頼長師長
(ハートセンター)

心不全地域医療連携の取り組みにおける現状と課題を報告しました。A 病院のみ転院後1週間以内で転送される症例があり、A 病院は他の施設に比べ、循環器専門医の常勤医師数が少なく、循環器疾患入院患者の割合が全患者の10%未満でした。また、循環器診療における医療機器の使用や医療処置の施行頻度が少ない病棟でありました。したがって、施設の内部環境の違いが、患者の診療体制に大きく影響したと考えられ、特に、心不全は患者の身体所見に基づいた細やかな薬剤調整が必要であり、多職種による包括的なケアが必要であると思われました。医師の勤務体制や循環器疾患に対する看護師の実践能力、病院の建築構造等の病院全体の環境を理解し、個別連携が必要であり、各施設の強みを活かした連携は、患者にとって最適な療養環境を提供すること、今後は、互いの理解を深め、パートナーシップを発揮した関係性の構築が必要であると思われます。

「心音を用いて非侵襲的に心大血管疾患患者の心収縮力を評価する手法の開発」

松田拓朗、藤見幹太、北島研、三浦伸一郎、塩田悦仁



松田先生
(心臓リハビリテーションセンター兼務)

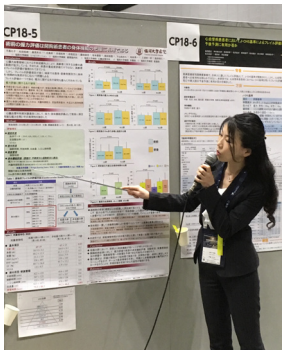
心大血管疾患患者45名を対象に、心収縮力を反映する第一心音振幅(AHS-1)と左室駆出率 (EF)の関係を検討した結果、嫌気性代謝閾値発現後には運動負荷の漸増に伴い AHS-1が有意に増大し、EF の高低に関係なく交感神経活動の亢進に伴い運動負荷中の心収縮力は増大することが明らかとなりました。　今回の学術集会・ポスター発表を通して、多くの先生方より貴重なご意見を頂くことができ、今後の研究推進や心臓リハビリテーション運営において大変有意義な経験をさせて頂くことができましたこと、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

Editor: Keijiro Saku, MD, PhD, FACP, FACC

NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

「術前の握力評価は開胸術患者の身体機能の把握に有用である」

手島礼子、松田拓朗、藤見幹太、北島研、氏福佑希、戒能宏治、藤田政臣、三浦伸一郎、塩田悦仁



手島先生
（心臓リハビリテーションセンター兼務）

開胸術患者53名を対象に体力・身体機能評価指標として簡易に測定可能な握力のから握力低下群と非握力低下群に分類し、術前検査所見、術中・術後管理等の評価、身体機能の評価を比較しました。結果として、握力低下群は年齢が有意に高く、身体機能、HDL-C、アルブミンが有意に低く、術後挿管時間が有意に長かったです。握力測定は、簡易かつ汎用性が高く、術前の身体機能評価、活動状況、栄養摂取状況などの簡易的な状態把握に有用であることが期待されました。今回、初めて日本循環器学会学術集会にて発表をさせて頂きました。これまで私が参加させて頂いた学会と比較して循環器学会は、規模や内容のレベルが非常に高いことに驚きました。今回勉強させて頂いた事を日々の臨床と研究に活かしていけるように努めたいと思います。

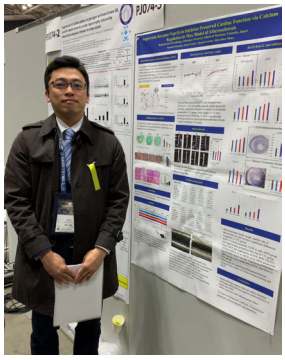
「Citizen Bystander-Patient Relationship and 1-Month Outcomes after Out-of-Hospital Cardiac Arrest of Cardiac Origin」
Suematsu Y , Kuwano T , Tsutsui H , Sato N , Ikeda T , Nagao K , Yonemoto N , Tahara Y , Miura S.

「Influenza Epidemic is Associated with Out-of-Hospital Cardiac Origin in Fukuoka」
Suematsu Y , Kuwano T , Tsutsui H , Sato N , Ikeda T , Nagao K , Yonemoto N , Tahara Y , Miura S.

「Ezetimibe Reduced Low-Lipoprotein Associated Platelet-Activating Factor Acetylhydrolase in Patients with Dyslipidemia」
末松保憲、田代浩平、桑野孝志、三浦伸一郎

「Angiotensin Receptor-Neprilysin Inhibitor Preserved Cardiac Function via Calcium Regulation in Mice Model of Atherosclerosis」
末松保憲、田代浩平、桑野孝志、三浦伸一郎

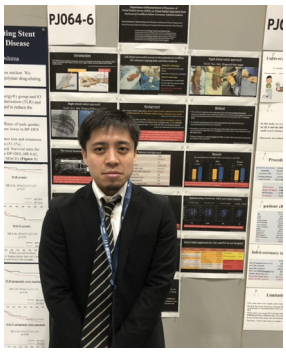
「Ezetimibe Suppresses Chylomicron Uptake via Reduction of Glycosyphosphatidylinositol Anchored High-Density Lipoprotein Binding Protein-1 and Angiopoietin-Like Protein-8 in Patients with Dyslipidemia」
末松保憲、田代浩平、桑野孝志、三浦伸一郎



末松先生

末松先生は、一人で５演題の発表をされました。

「Importance of Measurement of Diameter of Distal Radial Artery on Distal Radial Approach from Anatomical Snuffbox before Coronary Catheterization」
則松賢次、楠本孝明、桑野孝志、西川宏明、松村敏幸、三浦伸一郎



則松先生

Heart and Vessels
https://doi.org/10.1007/s00380-019-01404-2

ORIGINAL ARTICLE

Check for updates

Importance of measurement of the diameter of the distal radial artery in a distal radial approach from the anatomical snuffbox before coronary catheterization

Kenji Norimatsu[1] · Takaaki Kusumoto[1] · Keisuke Yoshimoto[2] · Mitoshi Tsukamoto[3] · Takashi Kuwano[4] · Hiroaki Nishikawa[5] · Toshiyuki Matsumura[6] · Shin-ichiro Miura[4]

則松先生の発表は、Heart and Vessels に掲載予定です。

NPO法人 臨床応用科学
Clinical and Applied Science

【その他の発表演題】

「Diurnal Variation of Blood Thrombin Genesis and Protein C in NVAF Patients under Administration of DOACs or Warfarin」
井手元良彰、小川正浩、吉峯有香、長田芳久、小牧智、森井誠士、三浦伸一郎

「Association between Brief Nutritional Score; CONUT Score and the Healing Rate of Ulcer in Critical Limb Ischemia Patients」
杉原充、池周而、桑野孝志、岩田敦、三浦伸一郎

「Association of First Documented Rhythms with Clinical Outcomes among Adult Witnessed OHCA Patients : JCS-ReSS Study」
加藤悠太、三浦伸一郎、平山敦士、西村邦宏、泉知里、安田聡、田原良雄、米本直裕、野々木宏、長尾建、池田隆徳、佐藤直樹、筒井裕之

「Patient Characteristics of Heart Failure with Mid-range Ejection Fraction」
有村忠聴、志賀悠平、北島研、岩田敦、三浦伸一郎

「Gender Differences with Regard to Obesity Paradox in Clinical Outcomes after Percutaneous Coronary Intervention : FU-Residtry」
毛利紀之、池周而、桑野孝志、杉原充、岩田敦、小川正浩、三浦伸一郎

「Differential Prognostic Impact between Successfully and Unsuccessfully Finished 150-days Cardiac Rehabikitation Program in Outpatients with Cardiovascular Diseases」
藤見幹太、北島研、上田隆士、石田紀久、今泉朝樹、三浦伸一郎

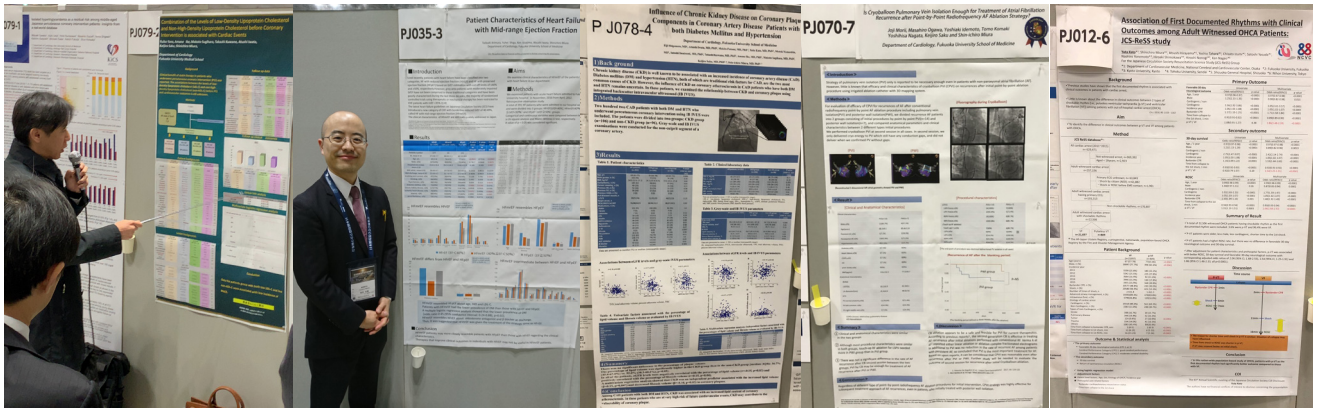
「Is Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation Enough for Treatment of Atrial Fibrillation Recurrence after Point-by-Point Radiofreqency AF Ablation Strategy? 」
森井誠士、小川正浩、井手元良彰、小牧智、長田芳久、朔啓二郎、三浦伸一郎

「Influence of Chronic Kidney Disease Patients with Both Diabetes Mellitus and Hypertension」
重本英二、岩田敦、山下素樹、桑野孝志、杉原充、池周而、三浦伸一郎

「Combination of the Levels of Low-density Lipoprotein Cholesterol an d Non-high-Density Lipoprotein Cholesterol before Coronary Intervention is Associated with Cardiac Events」
矢野祐依子、池周而、末松保憲、矢野雅也、桑野孝志、杉原充、岩田敦、三浦伸一郎

「糖尿病合併症高血圧患者の降圧療法と心血管病予防」
三浦伸一郎

「Association of Extremely Low Levels of Low-density Lipoprotein Cholesterol with Coronary Atherosclerosis in Patients who Underwent Coronary CT Angiography」
川平悠人、志賀悠平、井手元良彰、田代浩平、今泉朝樹、上田容子、矢野祐依子、則松賢次、中村歩、三浦伸一郎



池先生　有村先生　重本先生（ポスター）　森井先生（ポスター）　加藤先生（ポスター）

Prof. Saku's Commentary

福岡大学心臓・血管内科学の躍進を楽しんでます。日本循環器学会は、演題のセレクションが厳しいのですが、昨年に続き、今年も 23 演題の発表ですから、日本でもトップクラスに入ります。発表の形式はどうあれ、三浦教授が若手研究者を引き連れて、学会発表している雰囲気が伝わってきます。学会発表予行練習だけでも、大変な時間を使っているのを知ってますから。学問の世界には、このようなアクションが、一番重要ですね。

Editor: Keijiro Saku, MD, PhD, FACP, FACC